

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州松本うらまちレジリエンス・プロジェクト
事業主体 (連絡先)	信州松本うらまちレジリエンス協議会 会長 林勇次 090-3413-2384
事業区分	(6) エ 商業の振興 (6) ア 特色ある街づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	7,550,940 円 (うち支援金: 5,000,000 円)

事業内容

かつて繁華街として栄えた松本うらまち地区（松本市城東周辺）はすっかり寂れてしまった現実はあるものの、中心市街地の賑わい創出や回遊性確保の観点からみると、その立地や歴史的な位置付けには大きな可能性があります。

そこで、

- ① 演劇を活かした街づくりによる賑わいの創出
- ② 「サブカルチャーの街」に向けてワークショップ開催
- ③ 空き店舗の活用に向けた空き店舗見学ツアーの開催
- ④ 「うらまち探検プロジェクト」・「うらまち未来マルシェ」による賑わいの創出
- ⑤ 関係者によるエリアビジョン作りを実施します。



【うらまち探検プロジェクト】

【目標・ねらい】

- ① うらまちの賑わいを作る
- ② うらまちに店舗を増やす
- ③ サブカルチャーの街の具体像を作る
- ④ 市内との回遊性を創出する

事業効果

- ① 演劇の公演関係では 800 名を超える来場があり、賑わいを創出できました。回遊性に繋げていくことが課題であると考えています。
- ② ワorkshopについては参加したメンバーの著しい表現力の向上が見られ、マスコミ等にも取り上げられ大きな成果が得られました。今後街づくりとの繋がりを強くしていくことが重要です。
- ③ 空き店舗見学ツアーには 40 組という予想を超えた参加があり、この街で店を持ちたいというニーズがあることを知ると同時に飲食店以外の店の開店の可能性も実感できました。
- ④ この事業を通してこのプロジェクトに関わる人と組織が増えてきたことが大きな成果といえます。
- ⑤ エリアビジョン作りにより、「サブカルチャーの集まる街」という目指すべき全体像が明確になってきました。

※自己評価【A】

【理由】

一年毎にうらまちに足を運ぶ人を増やすことが実現できていることと、関わる人や組織も増えてきており、出店を希望する人達の具体的なニーズの把握が進んでいるため。

今後の取り組み

上記事業を今後も継続発展させていくためには、これまでで培った連携を活かし自立して運営することができる組織作りが必要であると考えています。3年目の終わりには新規店舗を3店舗増やすことを目標にやってきましたので、うらまち探検プロジェクトの内容をさらに充実させてどのような形であれば店舗を持つことができるか具体化していきます。そのためにも、現在の空き店舗を正確に把握し、情報として提供できる状況を作り、可能な限りオーナーを確認し、マップに落とし込むことを進めていきます。これまでに把握した出店希望者のニーズやウォンツを満たすためにプロジェクトがテストケースとして実践してみることにチャレンジしていきます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある